

7. 認知症等

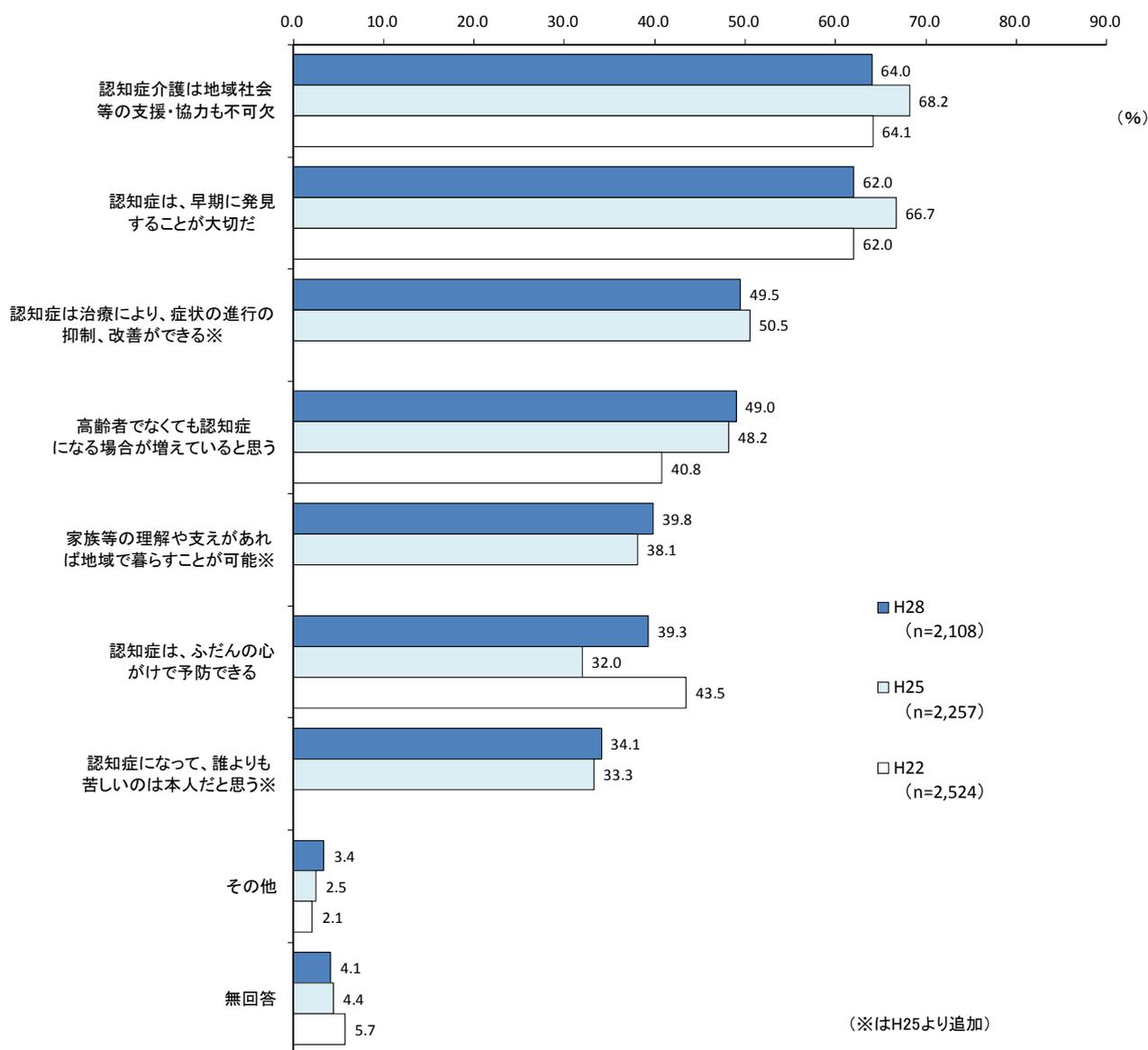
(1) 予防の普及啓発

① 認知症への関心

認知症のイメージについては、高齢者一般では「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」が64.0%、「認知症は、早期に発見することが大切だ」が62.0%と、ともに6割を超えている。

前回と比較すると、上位の割合（「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」、「認知症は、早期に発見することが大切だ」、「認知症は治療により、症状の進行の抑制、改善ができる」）に大きな変化はみられないが、「認知症は、ふだんの心がけで予防できる」は39.3%と前回（32.0%）を約7ポイント上回っている。

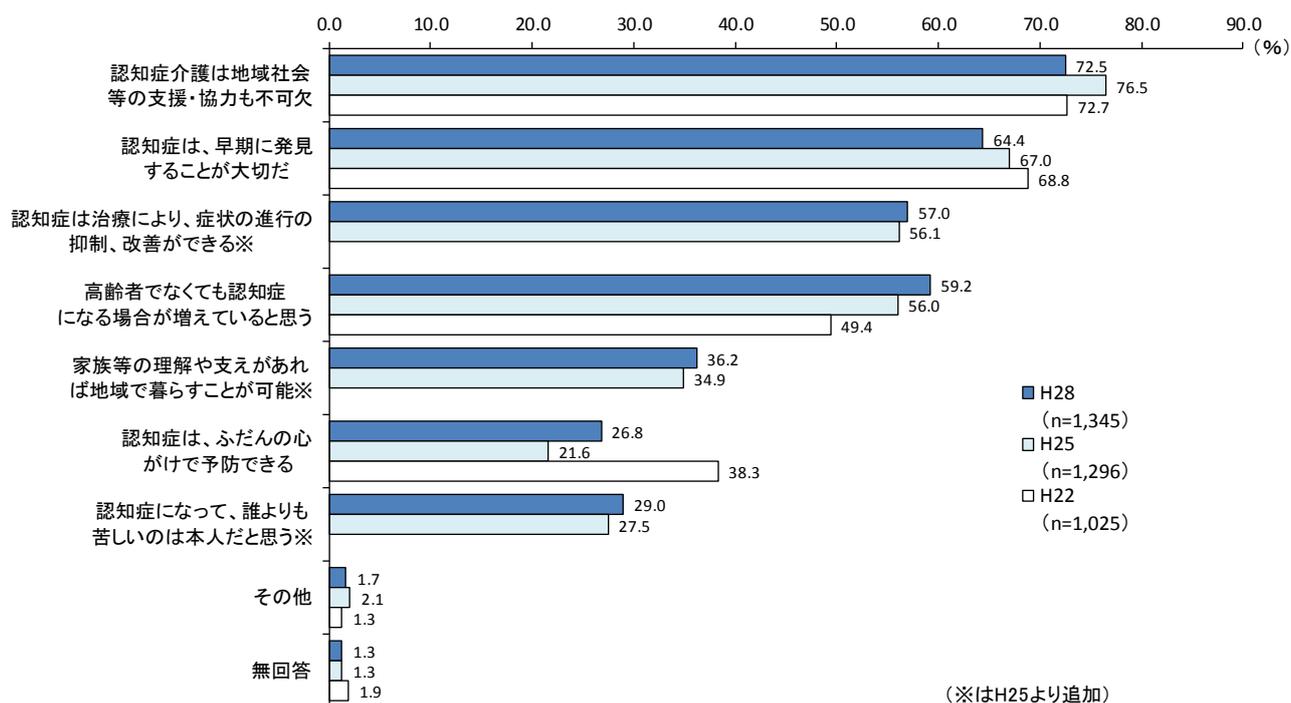
図表7(1)①-1 認知症のイメージ（複数回答、時系列、高齢者一般・問21）



一般 55～64 歳では、「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」が7割強（72.5%）、「認知症は、早期に発見することが大切だ」が6割強（64.4%）となっている。

前回と比較すると、上位の割合（「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」、「認知症は、早期に発見することが大切だ」）に大きな変化はみられないが、「高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う」は59.2%と前回（56.0%）を約3ポイント上回り、徐々に割合が高くなっている。

図表 7 (1)①-2 認知症のイメージ（複数回答、時系列、一般 55～64 歳・問 21）



高齢者一般の性別・年齢別では、「認知症は、ふだんの心がけで予防できる」及び「その他」以外の項目で男性・前期高齢者に比べて女性・前期高齢者の割合が上回る傾向がある。「認知症は、早期に発見することが大切だ」(女性 70.6%、男性 60.3%)、「認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる」(女性 60.5%、男性 47.0%)、「高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う」(女性 57.8%、男性 47.2%)等、それぞれ女性・前期高齢者が男性・前期高齢者を10ポイント程度上回っている。

一般55~64歳の性別では、各項目で男性に比べて女性の割合が上回り、特に「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」(女性 81.7%、男性 62.6%)、「認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う」(女性 44.1%、男性 27.7%)、「認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる」(女性 64.7%、男性 48.8%)が15ポイント以上高くなっている。

図表7(1)①-3 認知症のイメージ(複数回答)
(高齢者一般・問21)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別(性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	39.3	40.2	35.6	46.1	38.4	38.5	38.5
認知症は、早期に発見することが大切だ	62.0	58.3	60.3	55.7	65.6	70.6	60.0
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	49.5	45.7	47.0	43.9	53.1	60.5	45.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う	49.0	46.1	47.2	44.5	51.8	57.8	45.4
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	39.8	37.5	35.2	40.1	42.0	46.6	37.3
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	34.1	29.4	28.8	30.3	38.5	38.8	38.3
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	64.0	60.9	62.1	59.5	67.2	74.6	58.8
その他	3.4	3.0	3.0	2.9	3.8	2.1	5.6
無回答	4.1	4.6	2.3	7.3	3.7	2.3	5.2

(一般55~64歳・問21)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55~59歳 (n=294)	男性・ 60~64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55~59歳 (n=317)	女性・ 60~64歳 (n=374)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	26.8	24.8	22.4	26.7	28.8	31.5	26.2
認知症は、早期に発見することが大切だ	64.4	58.9	56.8	61.1	69.5	67.5	71.1
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	57.0	48.8	48.0	49.7	64.7	64.0	65.8
高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う	59.2	56.6	56.8	57.1	61.7	63.1	60.7
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	36.2	27.7	25.5	29.8	44.1	42.3	45.7
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	29.0	24.6	23.1	26.1	33.1	30.6	35.3
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	72.5	62.6	63.6	62.5	81.7	85.2	79.4
その他	1.7	1.5	3.1	0.3	1.9	1.9	1.9
無回答	1.3	1.4	1.7	0.6	1.2	0.9	1.3

介護状況別では、高齢者一般で、現在介護をしている人では「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が77.0%と、他より高くなっている。

一般55～64歳でも同様に、現在介護をしている人で「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が83.3%と、特に高くなっている。

図表7(1)①-4 認知症のイメージ（複数回答）
（高齢者一般・問21）

【介護状況別】

	TOTAL (n=2108)	介護状況別（無回答n=117非表示）		
		現在介護をしている (n=174)	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い (n=892)	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない (n=925)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	39.3	42.5	41.1	37.9
認知症は、早期に発見することが大切だ	62.0	67.2	66.7	57.9
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	49.5	54.6	53.5	46.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う	49.0	54.6	52.1	46.7
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	39.8	49.4	43.9	35.1
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	34.1	43.1	36.8	30.1
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	64.0	77.0	67.9	60.1
その他	3.4	3.4	2.5	4.0
無回答	4.1	3.4	2.9	3.9

（一般55～64歳・問21）

【介護状況別】

	TOTAL (n=1345)	介護状況別（無回答n=11非表示）		
		現在介護をしている (n=180)	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い (n=666)	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない (n=488)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	26.8	26.1	29.4	23.8
認知症は、早期に発見することが大切だ	64.4	61.7	67.4	61.7
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	57.0	61.1	60.4	51.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う	59.2	63.9	61.4	54.5
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	36.2	36.1	40.5	30.1
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	29.0	28.9	30.2	27.7
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	72.5	83.3	76.0	63.9
その他	1.7	2.2	2.1	1.0
無回答	1.3	0.6	0.6	1.8

高齢者一般の認知症への関心事としては「認知症の予防に効果的な方法」が62.2%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(58.7%)、「認知症の治療に関する情報」(40.2%)と続く。

性別・年齢別でみると、前期高齢者では男性に比べて女性で各項目への関心が多く、「認知症の治療に関する情報」(男性37.7%、女性47.9%)、「認知症の人の介護の仕方」(男性24.3%、女性35.8%)、「認知症の人や家族を支える地域の活動」(男性22.5%、女性34.8%)では女性前期高齢者が10ポイント程度上回っている。

一般55~64歳の認知症への関心事でも「認知症の予防に効果的な方法」が64.9%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(56.4%)、「認知症の治療に関する情報」(42.7%)と続く。

性別・年齢別でみると、男性に比べて女性で「認知症の治療に関する情報」や「認知症の人や家族を支える地域の活動」に関心を持つ人の割合が高い。

図表7(1)①-5 認知症への関心事(複数回答)
(高齢者一般・問22)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別(性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
認知症を正しく理解するための講座	27.4	25.7	25.6	25.8	29.0	31.0	26.5
認知症の予防に効果的な方法	62.2	62.8	64.0	61.2	61.7	67.7	55.2
認知症の兆候を早期に発見する方法	58.7	59.0	62.3	54.8	58.9	64.4	52.7
認知症の治療に関する情報	40.2	38.1	37.7	38.5	42.3	47.9	36.2
認知症の人の介護の仕方	28.3	25.4	24.3	26.5	30.9	35.8	25.2
認知症の人や家族を支える地域の活動	26.0	22.5	22.5	22.5	29.4	34.8	23.3
その他	1.4	0.8	0.5	1.1	1.8	1.1	2.7
特になし	9.5	11.4	11.6	11.1	7.9	5.3	10.8
無回答	4.7	4.4	2.1	7.1	4.9	2.7	7.3

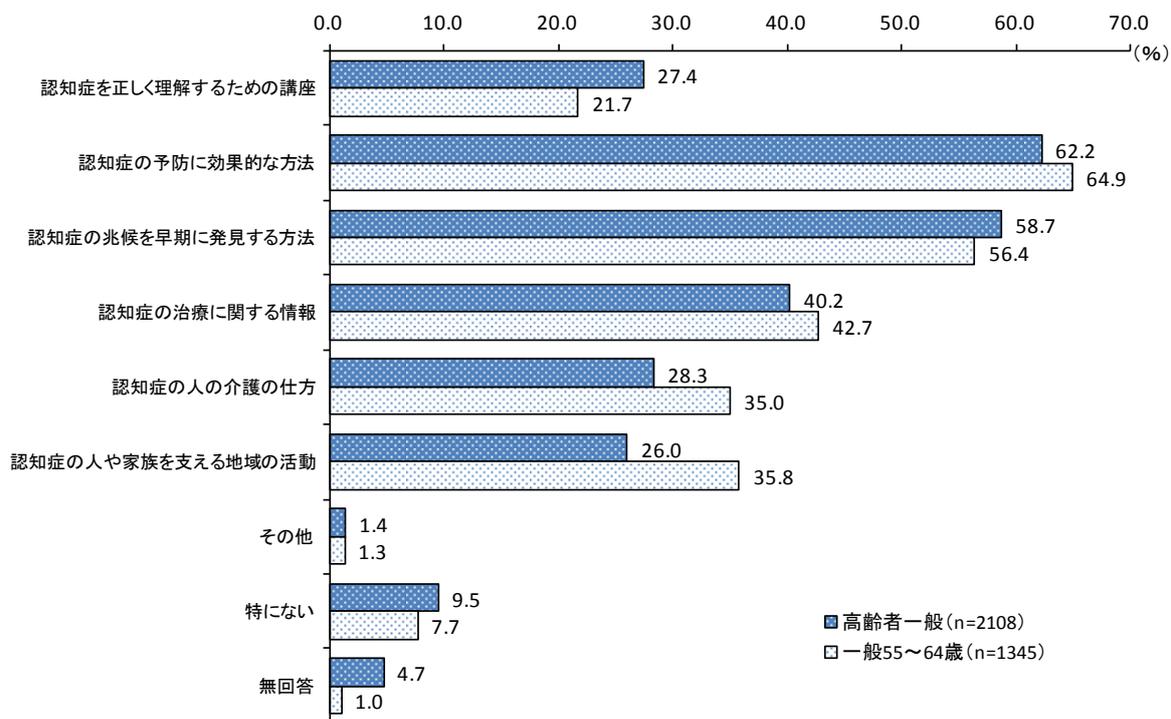
(一般55~64歳・問22)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55~59歳 (n=294)	男性・ 60~64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55~59歳 (n=317)	女性・ 60~64歳 (n=374)
認知症を正しく理解するための講座	21.7	18.9	17.0	20.7	24.4	24.9	23.8
認知症の予防に効果的な方法	64.9	62.6	59.9	65.3	67.0	69.4	64.7
認知症の兆候を早期に発見する方法	56.4	55.2	53.1	57.7	57.5	54.9	59.9
認知症の治療に関する情報	42.7	38.2	38.4	38.1	47.0	48.6	45.5
認知症の人の介護の仕方	35.0	31.7	32.3	31.3	38.0	41.6	35.0
認知症の人や家族を支える地域の活動	35.8	29.5	30.3	29.0	41.6	47.3	36.6
その他	1.3	0.9	1.0	0.9	1.6	1.6	1.6
特になし	7.7	10.2	12.9	8.0	5.5	5.0	5.9
無回答	1.0	1.1	0.7	0.9	0.9	0.3	1.3

高齢者一般と一般 55～64 歳で比較すると、「認知症の予防に効果的な方法」及び「認知症の治療に関する情報」、「認知症の人の介護の仕方」、「認知症の人や家族を支える地域の活動」で、それぞれ一般 55～64 歳が高くなっている。

図表 7 (1)①-6 認知症への関心事（複数回答）
（高齢者一般・一般 55～64 歳の比較）



介護状況別にみると、現在介護をしている人では「認知症の人の介護の仕方」が高く、高齢者一般で49.4%、一般55～64歳では52.2%となっている。

図表7(1)①-7 認知症への関心事（複数回答）
（高齢者一般・問22）

【介護状況別】

	TOTAL (n=2108)	介護状況別(無回答n=117非表示)		
		現在介護をしている (n=174)	現在は介護していないが、 今後介護する 立場になる 可能性が高い (n=892)	現在介護をしていないし、 今後も介護する 立場になる 可能性はほとん どない (n=925)
(%)				
認知症を正しく理解するための講座	27.4	30.5	30.6	24.3
認知症の予防に効果的な方法	62.2	60.9	67.2	60.5
認知症の兆候を早期に発見する方法	58.7	56.3	65.5	53.9
認知症の治療に関する情報	40.2	46.6	43.6	37.4
認知症の人の介護の仕方	28.3	49.4	33.0	20.5
認知症の人や家族を支える地域の活動	26.0	36.8	29.9	21.6
その他	1.4	2.3	0.8	1.4
特にない	9.5	7.5	6.2	13.4
無回答	4.7	3.4	3.5	3.8

（一般55～64歳・問22）

【介護状況別】

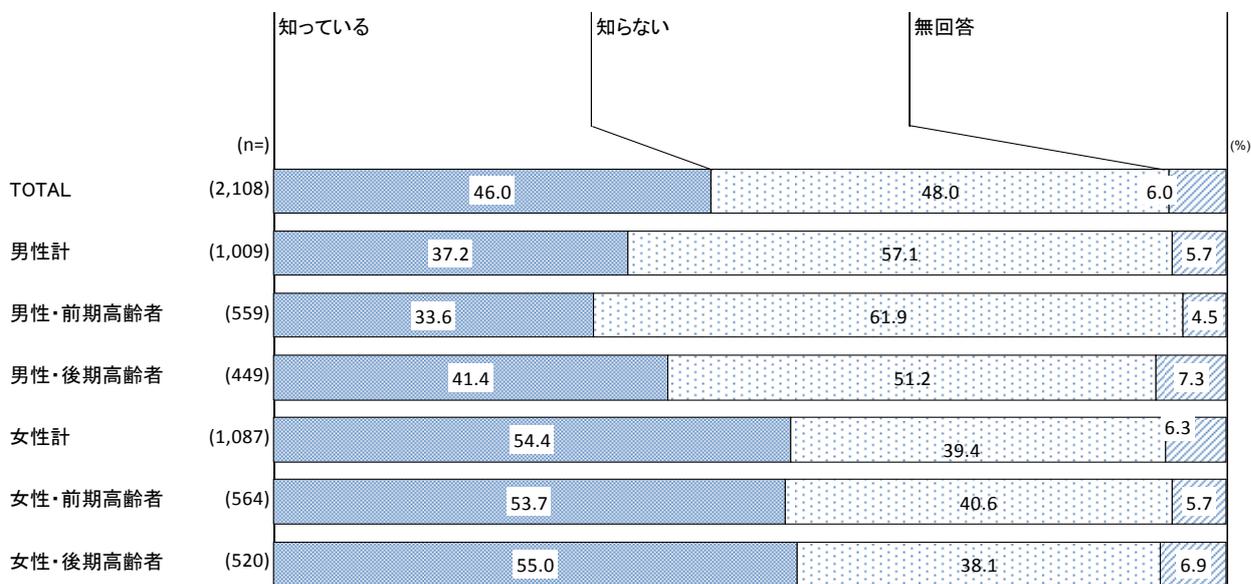
	TOTAL (n=1345)	介護状況別(無回答n=11非表示)		
		現在介護をして いる (n=180)	現在は介護して いないが、 今後介護する 立場になる 可能性が高い (n=666)	現在介護をして いないし、今 後も介護する 立場になる 可能性はほとん どない (n=488)
(%)				
認知症を正しく理解するための講座	21.7	23.3	23.3	18.4
認知症の予防に効果的な方法	64.9	62.2	66.2	64.5
認知症の兆候を早期に発見する方法	56.4	52.8	57.7	56.6
認知症の治療に関する情報	42.7	47.8	42.8	40.8
認知症の人の介護の仕方	35.0	52.2	39.5	22.5
認知症の人や家族を支える地域の活動	35.8	40.6	41.4	26.2
その他	1.3	3.9	1.1	0.4
特にない	7.7	2.8	7.7	9.6
無回答	1.0	0.6	0.9	1.0

高齢者一般では、自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」人と「知らない」人がほぼ半々である。ただし、男性では「知らない」人が57.1%と多く、特に男性・前期高齢者では61.9%となっている。

一般 55～64 歳においても、自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」人と「知らない」人はほぼ半々である。ただし、男性では「知らない」人が63.4%と多い。

図表7 (1)①-8 認知症になったときの相談先の認知度
(高齢者一般・問23)

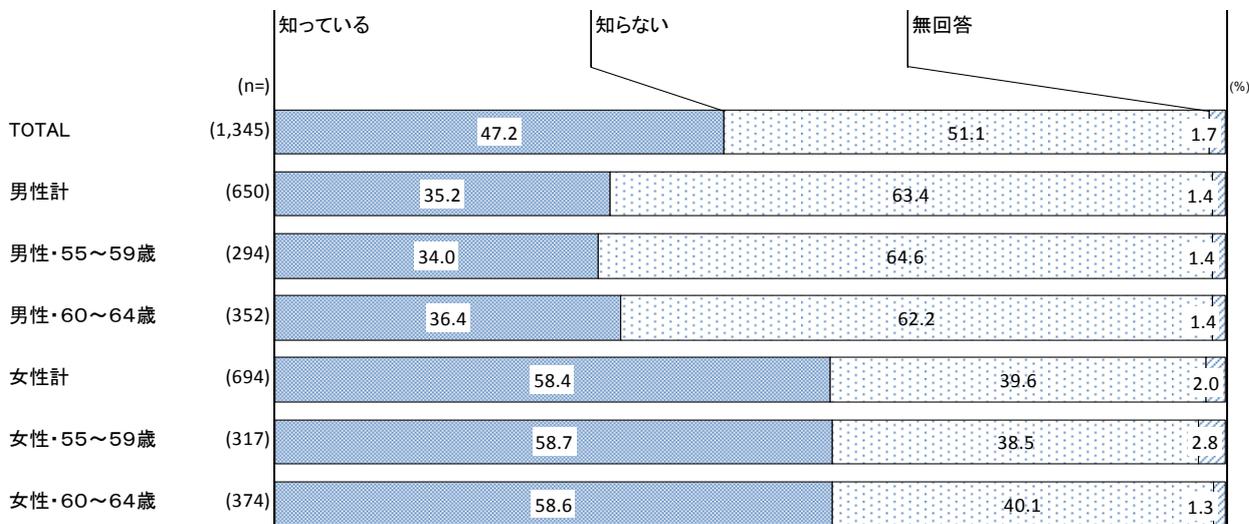
【性別・年齢別】



(性別無回答 n=12、男性年齢無回答 n=1、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

(一般 55～64 歳・問23)

【性別・年齢別】



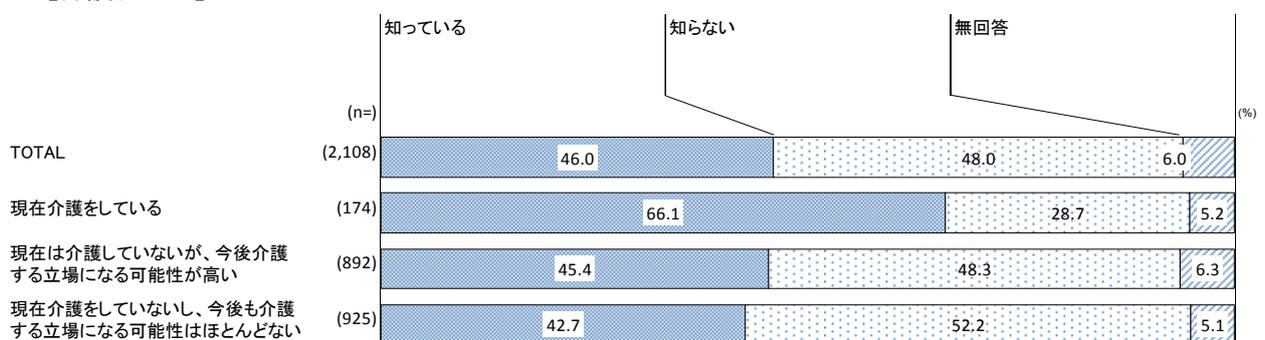
(性別無回答 n=1、男性年齢無回答 n=4、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

介護状況別にみると、高齢者一般の現在介護をしている人では7割弱（66.1%）が自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」一方、現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い人では48.3%が「知らない」と回答している。

一般 55～64 歳においても、現在介護をしている人では7割以上（72.2%）が「知っている」一方、現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い人では53.6%が「知らない」と回答している。

図表 7 (1)①-9 認知症になったときの相談先の認知度
(高齢者一般・問 23)

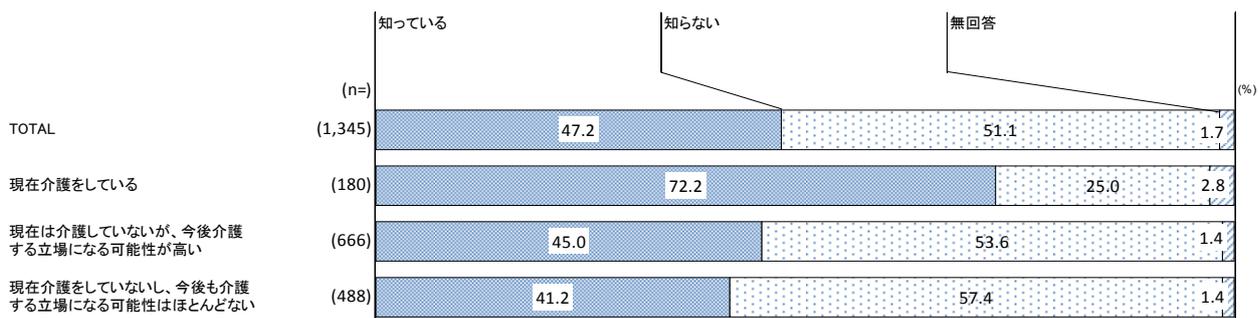
【介護状況別】



(無回答 n=117 は非表示)

(一般 55～64 歳・問 23)

【介護状況別】



(無回答 n=11 は非表示)

認知症になったときの具体的な相談先は、高齢者一般では「かかりつけ医（病院・診療所）」が61.6%と最も多く、次いで「区役所（福祉保健センター）」（56.6%）や「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」（50.2%）となっている。特に、男女ともに年齢が高いほど「かかりつけ医（病院・診療所）」とする割合が高くなっている。

介護状況別にみると、現在介護をしている人では6割程度が「かかりつけ医（病院・診療所）」（64.3%）、「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」（61.7%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（59.1%）と答えている。

図表7(1)①-10 認知症になったときの具体的な相談先（複数回答、高齢者一般・問23-1）

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=970)	性別・年齢別（性別無回答n=4、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=2非表示）					
		男性計 (n=375)	男性・ 前期高齢者 (n=188)	男性・ 後期高齢者 (n=186)	女性計 (n=591)	女性・ 前期高齢者 (n=303)	女性・ 後期高齢者 (n=286)
(%)							
区役所（福祉保健センター）	56.6	57.1	59.6	54.3	56.7	68.6	44.1
地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	50.2	46.1	45.2	47.3	53.0	59.1	46.5
市・区社会福祉協議会	13.8	14.9	17.6	12.4	13.0	16.5	9.4
かかりつけ医（病院・診療所）	61.6	61.3	54.8	67.7	61.9	58.7	65.0
認知症疾患医療センター	11.0	9.9	8.0	11.8	11.8	11.2	12.2
認知症コールセンター	7.2	4.3	3.7	4.8	9.1	9.9	8.0
民生委員	11.6	10.7	8.5	12.9	12.4	11.9	12.9
ケアマネジャー（介護支援専門員）	34.9	32.8	33.0	32.8	36.4	37.3	35.0
家族会	4.3	4.0	4.3	3.8	4.4	4.3	4.5
その他	0.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4
無回答	0.4	0.8	1.1	0.5	0.2	0.0	0.3

【介護状況別】

	TOTAL (n=970)	家族の介護状況別（無回答n=55非表示）		
		現在介護を している (n=115)	現在は介護し ていないが、 今後介護する 立場になる可 能性が高い (n=405)	現在介護をし ていないし、今 後も介護する 立場になる可 能性はほとん どない (n=395)
(%)				
区役所（福祉保健センター）	56.6	55.7	64.0	53.2
地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	50.2	61.7	49.1	48.1
市・区社会福祉協議会	13.8	9.6	14.1	15.2
かかりつけ医（病院・診療所）	61.6	64.3	63.5	60.8
認知症疾患医療センター	11.0	12.2	10.6	10.4
認知症コールセンター	7.2	9.6	7.4	6.1
民生委員	11.6	7.0	11.9	13.2
ケアマネジャー（介護支援専門員）	34.9	59.1	26.4	33.7
家族会	4.3	5.2	3.0	4.6
その他	0.5	0.9	0.2	0.5
無回答	0.4	0.0	0.0	0.8

認知症になったときの具体的な相談先は、一般 55～64 歳では「区役所(福祉保健センター)」(59.5%) や「地域包括支援センター(地域ケアプラザ)」(59.5%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(54.0%)、「かかりつけ医(病院・診療所)」(52.1%)が多くなっている。特に、女性は男性と比べて、「区役所(福祉保健センター)」や「地域包括支援センター(地域ケアプラザ)」、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」へ相談する割合が高くなっている。

介護状況別にみると、現在介護をしている人では7割(70.0%)が「ケアマネジャー(介護支援専門員)」が相談先であると回答している。

図表 7 (1)①-11 認知症になったときの具体的な相談先(複数回答、一般 55～64 歳・問 23-1)
【性別・年齢別】

相談先	TOTAL (n=635)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=1非表示)					
		男性計 (n=229)	男性・ 55～59歳 (n=100)	男性・ 60～64歳 (n=128)	女性計 (n=405)	女性・ 55～59歳 (n=186)	女性・ 60～64歳 (n=219)
区役所(福祉保健センター)	59.5	54.6	57.0	52.3	62.5	60.8	63.9
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	59.5	48.9	48.0	50.0	65.4	67.7	63.5
市・区社会福祉協議会	10.9	7.9	6.0	9.4	12.6	12.4	12.8
かかりつけ医(病院・診療所)	52.1	48.0	47.0	49.2	54.6	55.4	53.9
認知症疾患医療センター	9.6	9.2	9.0	9.4	9.9	7.0	12.3
認知症コールセンター	4.3	0.9	2.0	0.0	6.2	4.3	7.8
民生委員	9.4	8.3	9.0	7.8	10.1	11.3	9.1
ケアマネジャー(介護支援専門員)	54.0	47.6	53.0	43.8	57.5	68.3	48.4
家族会	4.3	0.4	0.0	0.8	6.4	5.9	6.8
その他	0.6	0.4	0.0	0.8	0.7	1.1	0.5
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.5

【介護状況別】

相談先	TOTAL (n=635)	介護状況別(無回答n=4非表示)		
		現在介護を している (n=130)	現在は介護 していないが、 今後介護する 立場になる可 能性が 高い (n=300)	現在介護を していないし、 今後も介護する 立場になる可 能性はほとん どない (n=201)
区役所(福祉保健センター)	59.5	52.3	61.0	62.7
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	59.5	64.6	59.0	57.2
市・区社会福祉協議会	10.9	8.5	11.0	12.4
かかりつけ医(病院・診療所)	52.1	58.5	50.3	51.2
認知症疾患医療センター	9.6	5.4	10.0	11.4
認知症コールセンター	4.3	3.1	5.0	4.0
民生委員	9.4	8.5	9.0	10.9
ケアマネジャー(介護支援専門員)	54.0	70.0	54.3	43.3
家族会	4.3	2.3	6.0	3.0
その他	0.6	0.0	1.0	0.5
無回答	0.2	0.0	0.3	0.0

② 事業所等における認知症ケアの取組

介護事業所では「認知症に関する研修を実施（または外部主催の研修を受講）している」が70.8%で最も多く、次いで「認知症ケアに関するマニュアル等を整備している」が60.7%となっている。

図表 7 (1)②-1 介護事業所における認知症ケアの取組（複数回答、介護事業所・問 17）

	TOTAL (n=1700)
認知症に関する研修を実施(または外部主催の研修を受講)している (%)	70.8
認知症ケアに関するマニュアル等を整備している	60.7
認知症に関する事例検討を実施している	37.4
その他	3.5
無回答	9.5

地域ケアプラザでは「認知症サポーター養成講座の開催」が96.7%と最も多く、次いで「介護者のつどい（家族の会）等の介護者に対する支援」が93.4%、「認知症予防の講座の開催」が90.9%と続く。

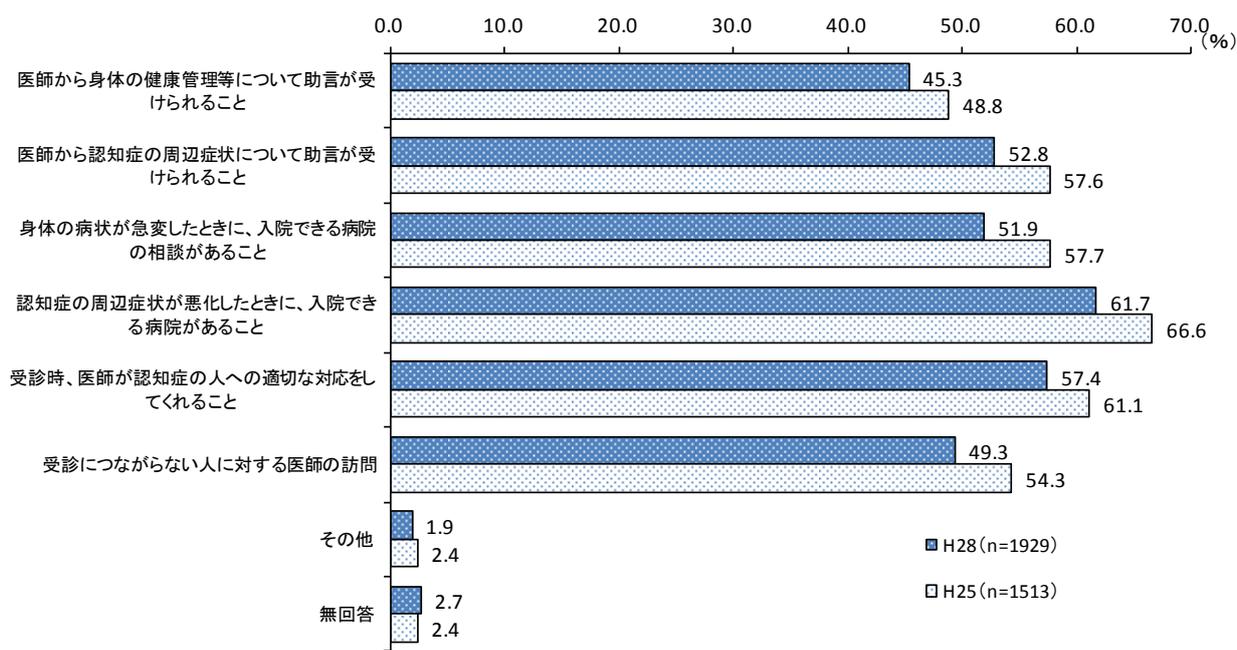
図表 7 (1)②-2 地域ケアプラザにおける認知症ケアの取組
（複数回答、ケアプラ・問 20）

	TOTAL (n=121)
認知症サポーター養成講座の開催 (%)	96.7
介護者のつどい(家族の会)等の介護者に対する支援	93.4
認知症予防の講座の開催	90.9
成年後見制度や権利擁護に関する講演会等の開催	76.9
認知症キャラバン・メイトの支援	64.5
地域のネットワーク構築のための事業への参加	49.6
認知症の人や家族等のための交流の場や居場所づくり(認知症カフェ等)	43.0
包括エリアネットワーク構築のための連絡会の開催	37.2
認知症に関する相談会等の開催(総合相談以外)	24.0
若年性認知症の人への支援	17.4
その他	2.5
無回答	0.0

(2) 認知症の医療介護連携

認知症の医療介護連携を進める上で必要なこととして、ケアマネジャーでは「認知症の周辺症状が悪化した時に、入院できる病院があること」をあげた人が61.7%と最も多く、次いで「受診時、医師が認知症の人への適切な対応をしてくれること」(57.4%)、「医師から認知症の周辺症状について助言が受けられること」(52.8%)と続く。

図表7(2) 認知症の医療介護連携を進める上で必要なこと
(複数回答、時系列、ケアマネジャー・問37)

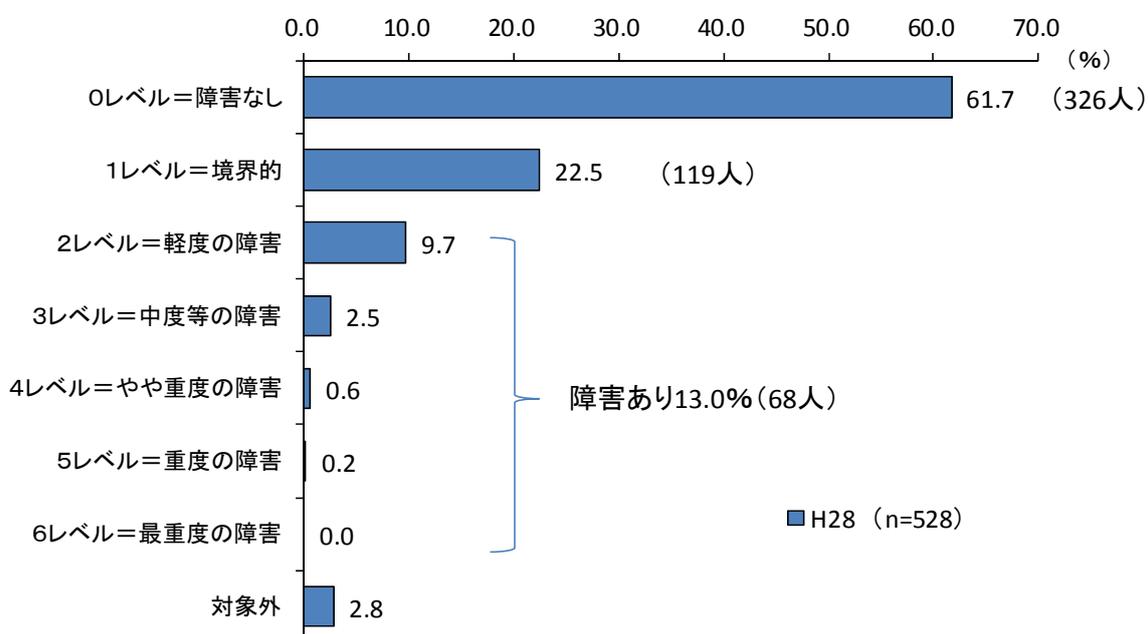


(3) 認知機能障害区分

認知機能障害区分とは、認知機能に障害がみられる方を把握するため、「日常意志決定を行うための認知能力」、「自分を理解させることができる能力」、「短期記憶」、「食事の自己動作」の4項目の回答パターンにより、「0=障害なし」～「6=重度・最重度の障害」までの7段階に区分し（認知機能尺度CPS：Cognitive Performance Scale）、判定を行っているものである。

認知機能障害区分では、要支援では、何らかの障害レベル（2レベル以上）に該当するのは13.0%となっている。

図表 7 (3) 認知機能障害区分（複数回答、要支援）



(4) 不安を感じる介護

要支援者の在宅での介護で、主に介護している人が困ったり、負担に感じていることは、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」が20.2%と最も多く、次いで「精神的なストレスがたまっている」(19.7%)、「日中、家を空けるのを負担に感じる」(13.4%)、「先々のことを考える余裕がない」(13.0%)となっている。

認知機能障害区分(CPS)別にみると、サンプル数は少ないが、障害のレベルが高くなるほど「日中、家を空けるのを不安に感じる」や「先々のことを考える余裕がない」等の割合が高くなっている。

図表7(4)-1 介護負担感(複数回答、要支援・問52)

【認知機能障害区分(CPS)別】

	(%)	TOTAL (n=238)	認知機能障害区分(CPS)別(無回答n=3非表示)			
			0レベル (障害なし) (n=135)	1レベル (境界的) (n=62)	2レベル (軽度の障害) (n=29)	3~6レベル (中・重度の障害) (n=9)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	6.3	3.7	8.1	13.8	11.1
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	8.8	5.2	6.5	27.6	22.2
	来客にも気を遣う	10.5	9.6	6.5	20.7	22.2
	本人の言動が理解できないことがある	6.7	3.0	11.3	13.8	11.1
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	2.1	2.2	1.6	0.0	11.1
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	5.9	5.2	4.8	10.3	11.1
	症状への対応がわからない	6.3	5.9	1.6	13.8	22.2
	徘徊するため目が離せない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	3.4	2.2	4.8	6.9	0.0
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	2.5	2.2	3.2	3.4	0.0
	日中、家を空けるのを不安に感じる	13.4	8.1	16.1	27.6	33.3
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	3.4	1.5	4.8	6.9	0.0
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	0.8	1.5	0.0	0.0	0.0
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	1.7	1.5	1.6	0.0	0.0
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	9.2	9.6	8.1	13.8	0.0
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	0.8	0.7	0.0	0.0	11.1
	サービス事業者との関係がうまくいかない	0.8	0.0	1.6	3.4	0.0
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.1	2.2	1.6	3.4	0.0
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	11.3	8.1	9.7	24.1	33.3
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	20.2	22.2	16.1	17.2	33.3
	精神的なストレスがたまっている	19.7	17.8	14.5	34.5	33.3
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	5.9	5.2	3.2	10.3	11.1
	自分の自由になる時間が持てない	10.1	10.4	4.8	17.2	22.2
	先々のことを考える余裕がない	13.0	8.9	14.5	20.7	33.3
	経済的につらいと感じるときがある	8.4	8.9	9.7	6.9	0.0
	仕事と介護の両立が困難	4.2	5.2	3.2	3.4	0.0
	育児と介護の両立が困難	0.8	0.7	1.6	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	3.4	3.7	4.8	0.0	0.0
その他	3.4	2.2	4.8	6.9	0.0	
特に困っていることはない	23.9	31.9	12.9	13.8	22.2	
無回答	26.1	21.5	32.3	27.6	33.3	

要介護者の在宅での介護で、主に介護をしている人が困ったり、負担に感じていることは、「精神的なストレスがたまっている」が 48.5%と最も多く、次いで「日中、家を空けるのを不安に感じる」(44.3%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(34.4%)、「自分の自由になる時間が持てない」(34.3%)、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」(33.7%)となっている。

認知機能の状態別にみると、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」、「日中、家を空けるのを不安に感じる」、「自分の用事・都合をすませることができない」、「精神的なストレスが溜まっている」、「自分の自由になる時間が持てない」は、常に介護が必要なほど高くなっている。

図表 7 (4)-2 介護負担感(複数回答、要介護・問 30)

【認知機能の状態(問 15)別】

		認知機能の状態(問15)別(無回答n=65非表示)						
		TOTAL	多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たばこ・び道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さにあり、常に介護が必要	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない
		(n=1202)	(n=401)	(n=185)	(n=184)	(n=138)	(n=19)	(n=210)
		(%)						
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	21.5	9.0	24.3	28.8	51.4	52.6	15.7
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	33.7	12.0	46.5	54.3	73.9	57.9	21.0
	来客にも気を遣う	18.3	12.0	20.0	23.4	33.3	36.8	15.2
	本人の言動が理解できないことがある	29.3	12.2	37.8	42.9	65.2	73.7	18.6
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.1	4.0	8.6	7.6	10.1	10.5	4.3
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	9.2	4.7	10.8	13.0	21.0	15.8	6.2
	症状への対応がわからない	11.4	4.5	14.1	20.1	18.1	31.6	11.0
	徘徊するため目が離せない	3.4	0.0	1.6	4.9	18.8	0.0	1.4
	他の家族等に介護を協力してもらえない	12.1	6.5	15.1	14.1	25.4	10.5	7.6
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	4.8	2.2	10.3	6.0	7.2	5.3	2.9
	日中、家を空けるのを不安に感じる	44.3	29.7	50.3	60.9	59.4	47.4	44.8
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	7.6	5.7	6.5	10.9	18.1	5.3	3.8
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	3.2	1.7	2.2	7.1	5.1	0.0	3.3
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	2.8	1.7	2.7	3.8	5.1	5.3	2.4
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	4.2	9.7	9.8	15.2	15.8	5.7
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	3.2	2.0	2.2	3.8	10.1	15.8	1.4
	サービス事業者との関係がうまくいかない	2.1	2.2	2.2	2.7	2.9	0.0	0.5
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	1.7	1.2	2.7	1.1	2.2	5.3	1.9
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	27.2	15.5	33.0	37.5	49.3	42.1	21.9
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	34.4	27.2	28.6	39.7	55.1	31.6	39.0
	精神的なストレスがたまっている	48.5	36.7	55.1	66.8	67.4	57.9	41.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	17.4	8.2	15.7	19.6	42.8	31.6	19.0
	自分の自由になる時間が持てない	34.3	18.7	37.3	48.9	58.0	42.1	35.2
	先々のことを考える余裕がない	23.9	14.2	28.1	29.9	40.6	31.6	24.8
	経済的につらいと感じるときがある	21.1	15.2	22.7	21.7	34.8	31.6	23.8
	仕事と介護の両立が困難	11.9	8.7	11.9	19.0	22.5	15.8	6.2
	育児と介護の両立が困難	0.7	0.5	0.5	1.1	2.2	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	8.2	5.2	5.9	9.8	19.6	15.8	8.1
	その他	4.7	3.7	5.9	3.8	5.8	0.0	6.2
特に困っていることはない	9.4	15.5	5.9	2.2	0.7	5.3	13.3	
無回答	10.1	15.5	5.9	2.2	3.6	5.3	8.6	

未利用者の在宅での介護で、主に介護をしている人が困ったり、負担に感じていることは、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 25.8%と最も多く、次いで「精神的なストレスがたまっている」(25.4%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(17.9%)、「本人の言動が理解できないときがある」(15.0%)、「自分の自由になる時間が持てない」(14.8%)、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」、「自分の用事・都合をすませることができない」(ともに 13.5%) となっている。

図表 7 (4)-3 介護負担感 (複数回答、未利用・問 30)

【認知機能の状態 (問 20) 別】

		認知機能の状態(問20)別(無回答n=28非表示)						
		TOTAL (n=520)	多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=308)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たびたび道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=72)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=22)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=17)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=6)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=67)
	(%)							
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	10.4	6.8	15.3	40.9	17.6	0.0	9.0
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	13.5	8.1	25.0	45.5	35.3	33.3	9.0
	来客にも気を遣う	9.8	7.5	18.1	22.7	11.8	16.7	7.5
	本人の言動が理解できないことがある	15.0	7.8	29.2	54.5	47.1	16.7	13.4
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.3	3.6	11.1	18.2	5.9	16.7	6.0
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	7.5	6.2	11.1	22.7	11.8	0.0	6.0
	症状への対応がわからない	7.7	4.9	15.3	9.1	23.5	0.0	9.0
	徘徊するため目が離せない	1.2	0.3	0.0	13.6	5.9	0.0	0.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	6.7	3.9	12.5	22.7	17.6	0.0	7.5
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	5.4	4.5	8.3	13.6	11.8	0.0	3.0
	日中、家を空けるのを不安に感じる	25.8	17.2	44.4	54.5	47.1	16.7	29.9
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	5.4	2.3	15.3	13.6	5.9	0.0	6.0
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	2.7	2.9	2.8	0.0	11.8	0.0	0.0
サービス	介護することに對して、周囲の理解が得られない	1.5	1.0	2.8	0.0	5.9	16.7	0.0
	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	5.8	15.3	18.2	5.9	0.0	7.5
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	2.9	1.0	2.8	4.5	11.8	16.7	3.0
	サービス事業者との関係がうまくいかない	1.7	1.9	1.4	0.0	5.9	0.0	0.0
介護者ご自身	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.5	3.2	0.0	4.5	5.9	0.0	0.0
	自分の用事・都合をすませることができない	13.5	7.8	22.2	45.5	29.4	16.7	11.9
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	17.9	15.3	16.7	40.9	29.4	16.7	17.9
	精神的なストレスがたまっている	25.4	17.2	37.5	77.3	41.2	16.7	26.9
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	6.7	2.9	9.7	27.3	17.6	16.7	9.0
	自分の自由になる時間が持てない	14.8	9.1	20.8	45.5	47.1	16.7	14.9
	先々のことを考える余裕がない	12.3	7.8	15.3	31.8	35.3	16.7	11.9
	経済的につらいと感じるときがある	12.9	8.8	19.4	45.5	29.4	50.0	7.5
	仕事と介護の両立が困難	6.3	4.2	8.3	27.3	23.5	0.0	3.0
	育児と介護の両立が困難	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	5.0	3.2	5.6	27.3	5.9	0.0	3.0
	その他	3.5	2.9	5.6	9.1	5.9	0.0	3.0
特に困っていることはない	19.0	23.7	8.3	0.0	5.9	16.7	25.4	
無回答	22.5	25.6	15.3	0.0	23.5	16.7	17.9	

(5) 認知症の方の心配事・悩み

認知症の方がかかえる心配事・悩みは、要支援では「自分の健康のこと」が75.6%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(35.2%)となっている。

図表7 (5)-1 心配事・悩み（複数回答）
（要支援・問17）

【認知機能障害区分別】

	TOTAL (n=528)	認知機能障害区分別（無回答n=15非表示）			
		0レベル （障害なし） (n=326)	1レベル （境界的） (n=119)	2レベル （軽度の障害） (n=51)	3～6レベル （中・重度の 障害） (n=17)
自分の健康のこと	75.6	74.8	79.8	74.5	76.5
親族の健康のこと	35.2	33.4	42.9	31.4	47.1
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	17.6	16.0	26.1	11.8	5.9
ひとり暮らしや孤独になること	20.6	18.7	25.2	15.7	29.4
生活費等経済的なこと	21.4	18.1	29.4	21.6	29.4
安心して住める場所がないこと	2.8	1.2	4.2	7.8	0.0
趣味や生きがいがないこと	10.0	6.4	16.0	13.7	29.4
時間的なゆとりがないこと	3.8	3.1	5.0	3.9	5.9
精神的なゆとりがないこと	11.7	7.1	19.3	13.7	35.3
その他	2.5	2.8	1.7	3.9	0.0
心配ごとや悩みはない	5.1	7.1	2.5	2.0	0.0
無回答	6.4	5.5	5.0	5.9	11.8

認知症の方がかかえる心配事・悩みについて、要介護でも「自分の健康のこと」が72.8%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(29.4%)となっている。

図表 7 (5)-2 心配事・悩み (複数回答、要介護・問13)

【認知機能の状態 (問15) 別】

	TOTAL (n=1525)	認知機能の状態(問15)別(無回答n=99非表示)					
		多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=574)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たびたび道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=226)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=199)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=149)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=19)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=259)
(%)							
自分の健康のこと	72.8	79.4	76.1	71.4	65.8	78.9	68.0
親族の健康のこと	29.4	32.9	31.9	22.1	31.5	26.3	30.1
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	11.3	14.6	13.3	8.5	6.0	0.0	9.3
ひとり暮らしや孤独になること	16.4	17.9	20.4	15.1	20.1	15.8	10.0
生活費等経済的なこと	24.5	24.4	26.5	21.1	30.9	42.1	21.2
安心して住める場所がないこと	2.6	1.4	3.1	1.0	4.7	0.0	5.0
趣味や生きがいがないこと	16.2	13.1	23.0	23.6	24.8	36.8	6.9
時間的なゆとりがないこと	1.8	1.7	3.5	2.5	1.3	0.0	0.8
精神的なゆとりがないこと	12.1	10.3	12.8	16.6	13.4	31.6	11.2
その他	5.0	2.4	4.0	7.0	9.4	0.0	8.5
心配ごとや悩みはない	8.1	5.6	8.8	13.1	6.0	5.3	11.2
無回答	5.9	3.7	2.2	4.5	6.7	5.3	7.3

未利用でも同様に「自分の健康のこと」が72.2%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(32.9%)となっている。

図表7(5)-3 心配事・悩み(複数回答、未利用・問17)

【認知機能の状態(問20)別】

	TOTAL (n=860)	認知機能の状態(問20)別(無回答n=62非表示)					
		多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=546)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たばこ道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=87)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=23)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=21)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=8)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=113)
(%)							
自分の健康のこと	72.2	74.0	75.9	56.5	61.9	62.5	69.9
親族の健康のこと	32.9	34.4	34.5	21.7	14.3	25.0	31.9
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	13.0	14.1	8.0	8.7	9.5	12.5	11.5
ひとり暮らしや孤独になること	14.5	15.9	10.3	17.4	4.8	62.5	9.7
生活費等経済的なこと	22.1	21.2	25.3	30.4	23.8	62.5	21.2
安心して住める場所がないこと	3.4	3.5	5.7	8.7	0.0	12.5	0.9
趣味や生きがいがないこと	9.7	7.5	14.9	21.7	9.5	12.5	11.5
時間的なゆとりがないこと	3.0	3.3	4.6	4.3	0.0	0.0	2.7
精神的なゆとりがないこと	10.5	10.4	16.1	17.4	23.8	37.5	3.5
その他	3.7	3.3	3.4	4.3	4.8	37.5	5.3
心配ごとや悩みはない	8.1	6.8	9.2	17.4	19.0	0.0	10.6
無回答	6.2	5.9	4.6	8.7	4.8	12.5	5.3

(6) 権利擁護（成年後見制度）について

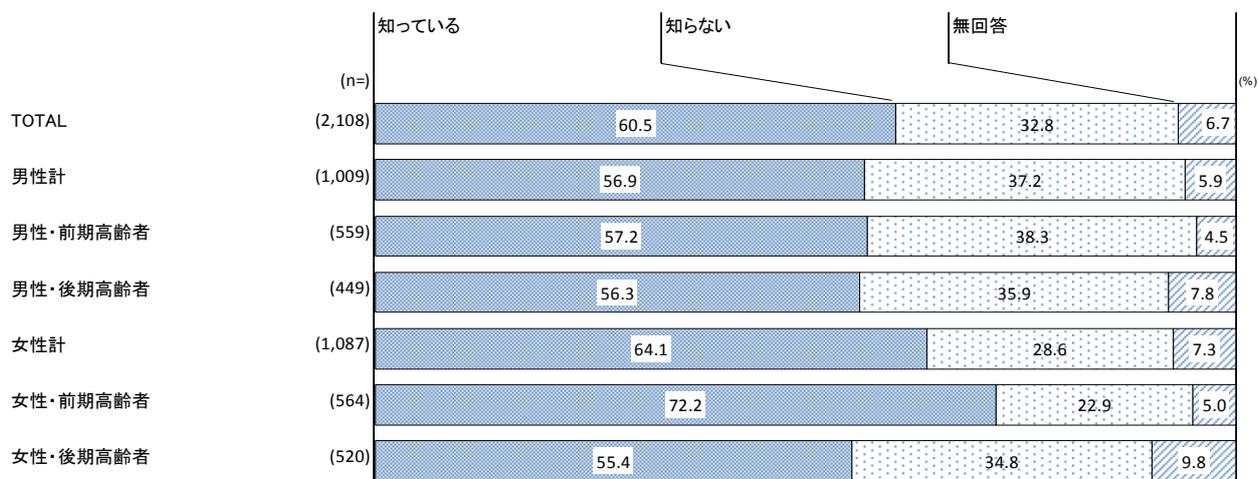
成年後見制度の認知度について、高齢者一般で「知っている」は60.5%、「知らない」は32.8%となっている。

性別・年齢別では、女性は前期高齢者では「知っている」が72.2%を占める。

また、介護状況別では、現在介護をしている人のほうが、制度を認知している割合が66.1%と高くなっている。

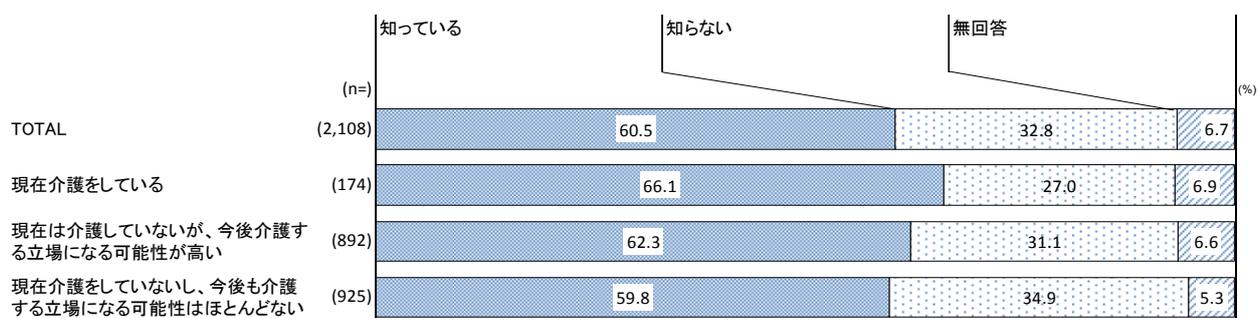
図表 7 (6)-1 成年後見制度の認知度（高齢者一般・問 24）

【性別・年齢別】



(性別無回答 n=12、男性年齢無回答 n=1、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

【介護状況別】



(無回答 n=117 は非表示)

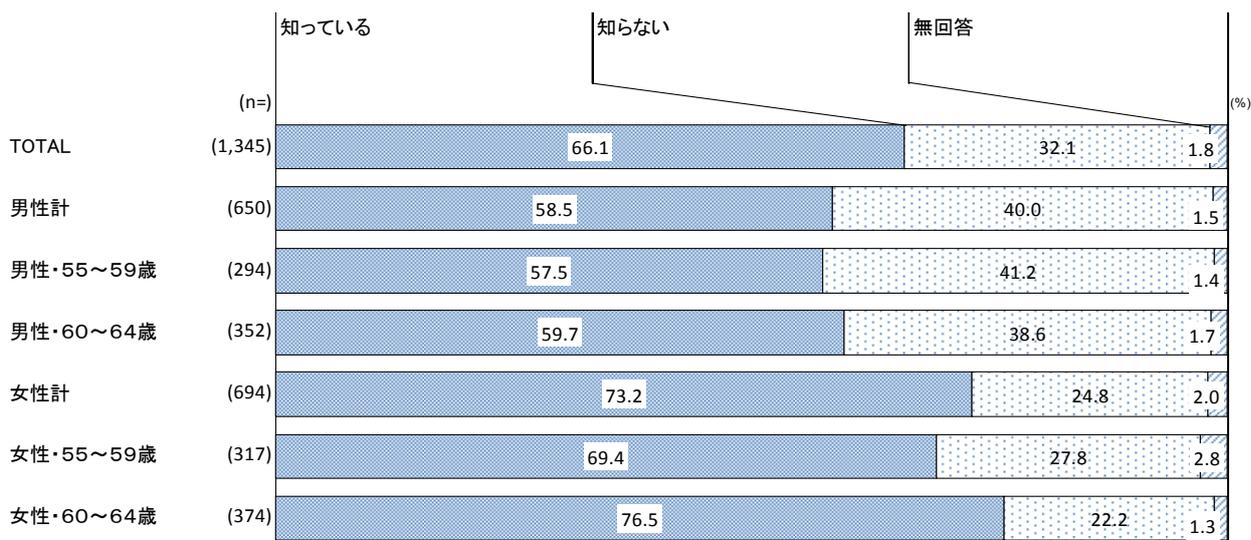
成年後見制度の認知度について、一般 55～64 歳で「知っている」は 66.1%、「知らない」は 32.1% となっている。

男性よりも女性が「知っている」人が多く（男性 58.5%、女性 73.2%）、特に、60～64 歳でその割合は高くなっている。

また、現在介護をしている人のほうが、認知している割合が高く、7割（73.3%）となっている。

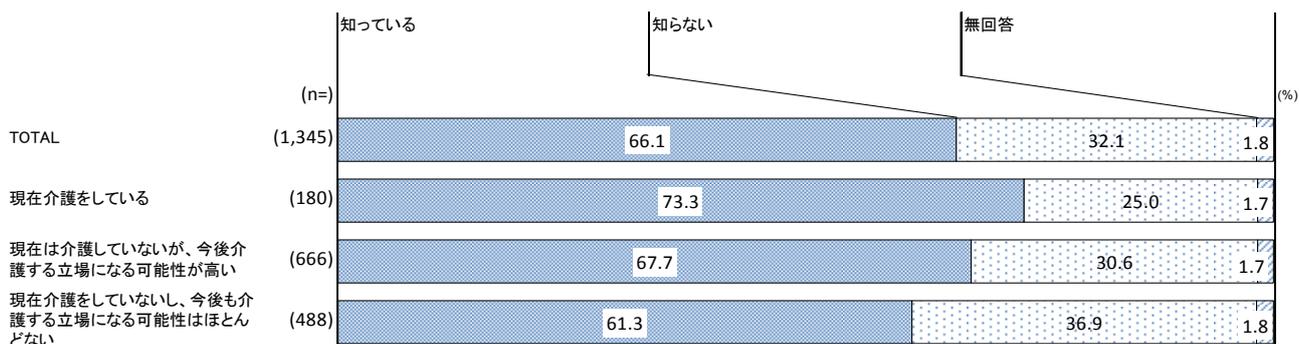
図表 7 (6)-2 成年後見制度の認知度（一般 55～64 歳・問 24）

【性別・年齢別】



(性別無回答 n=1、男性年齢無回答 n=4、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

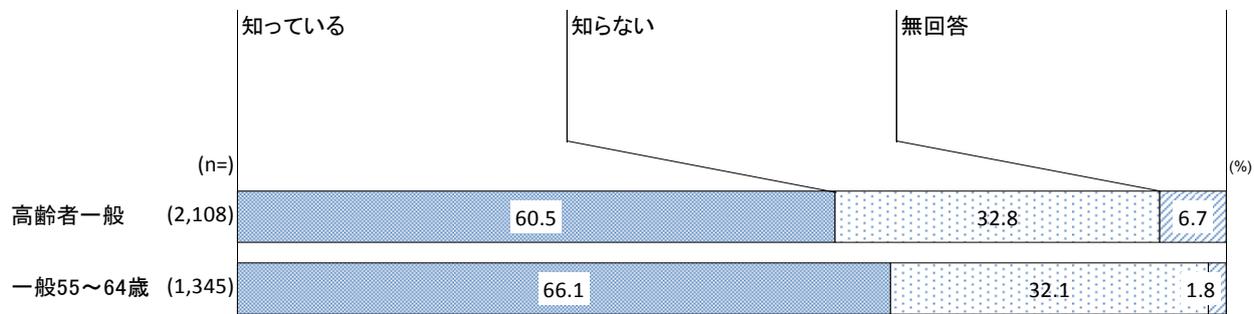
【介護状況別】



(無回答 n=11 は非表示)

高齢者一般と一般 55～64 歳を比較すると、「知っている」は高齢者一般が 60.5%、一般 55～64 歳が 66.1%となっており、一般 55～64 歳で高くなっている。

図表 7 (6) -3 成年後見制度の認知度（高齢者一般・一般 55～64 歳）



成年後見制度の利用意向は、高齢者一般で「利用してみたい」は 16.0%、「利用するつもりはない」は 81.5%となっている。

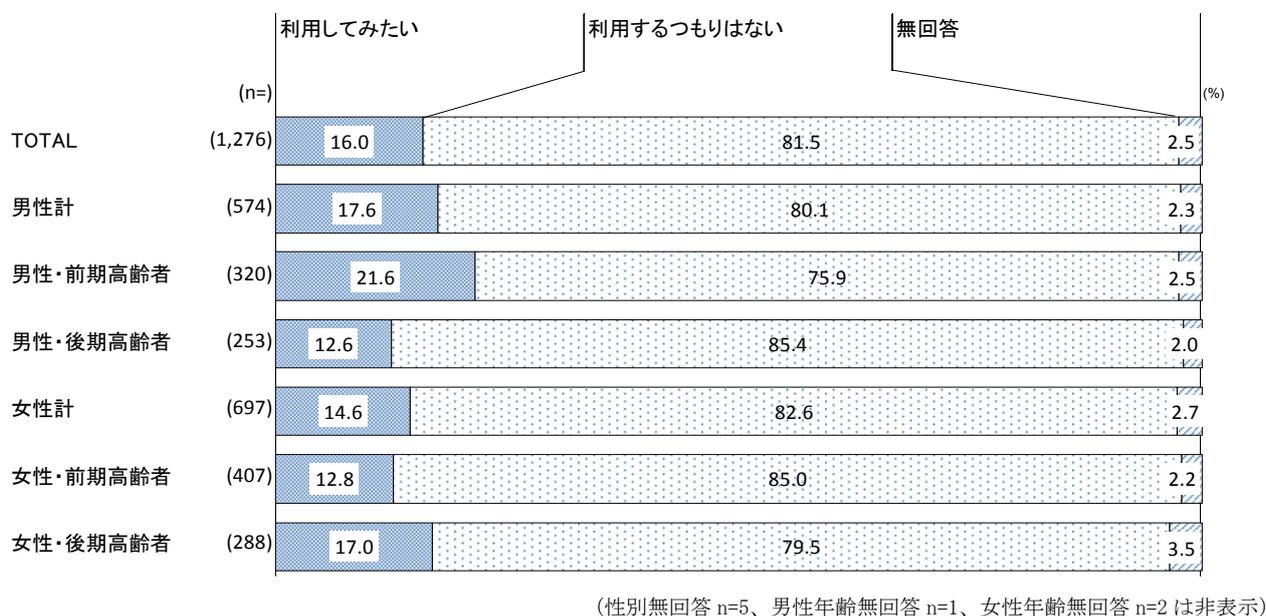
男性・前期高齢者で、「利用してみたい」の割合がやや高くなっている (21.6%)。

一般 55~64 歳で「利用してみたい」は 27.1%、「利用するつもりはない」は 70.9%となっており、高齢者一般より利用意向が高い。

女性より男性で、「利用してみたい」の割合が高くなっている (男性 30.8%、女性 24.4%)。

図表 7 (6)-4 成年後見制度の利用意向
(高齢者一般・問 24-1)

【性別・年齢別】



(一般 55~64 歳・問 24-1)

【性別・年齢別】

